

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	英語英文学科	夜・通信	61	なし	24	85	13	
	日本語日本文学科	夜・通信			42	103	13	
	現代社会学科	夜・通信			26	87	13	
人間生活学部	人間生活学科	夜・通信		なし	174	235	13	
	児童学科	夜・通信			212	273	13	
	食品栄養学科	夜・通信			48	109	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ndsu.ac.jp/department/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 実務家教員をすべての学部に配置している

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人ノートルダム清心学園ホームページで公表
<https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社従業員	自：令和5年5月23日 至：令和7年5月22日	外部理事として意見と評価
非常勤	株式会社役員	自：令和5年5月23日 至：令和9年5月22日	外部理事として意見と評価
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバス作成にあたっては、毎年、シラバス記入要項に基づき説明会を複数回開催している。また、シラバスの点検は本学独自のシラバス作成セルフチェックリストを作成し、作成者自身が確認を行うとともに、各学科の教務担当教員を中心に第3者による確認をおこない、適宜修正している。</p> <p>これらの取り組みにより、全学的に統一された様式で、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、毎年3月に公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.ndsu.ac.jp/department/syllabus.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記し、学生からの質問や疑問には各担当教員が対応している。</p> <p>成績評価は、授業の形態(講義、実験、実習、演習、実技等)に対応し、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。</p> <p>さらに、本学では、全学生に卒業論文を必修としている。卒業論文は4年間の学びの集大成として位置づけられ、その作成にあたっては、少数ゼミ方式で実施し、口頭試問など、きめ細やかな指導を行い、生涯にわたって知的・実践的探求を進めていくための基本的能力を涵養しており、その単位認定にあたっては、公開による論文発表会を開催し、厳格に審査している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では「成績等の評価とGPA制度に関する規程」に基づき、指標を設定・公表するなど適切に運用している。</p> <p>【GPAの指標】 評語及びグレード・ポイント並びにその基準等は次表のとおり。</p>				
評語	評点	評価内容		GP
秀	100～90	合格	到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を修めている。	4
優	89～80		到達目標を十分に達成している。	3
良	79～70		到達目標を一定程度達成している。	2
可	69～60		到達目標を最低限達成している。	1
不可	59～0	不合格	到達目標を達成していない。	0
放棄	—	不合格	出席が規定の授業回数 $\frac{3}{2}$ に満たない場合など、評価の対象とならない場合。	0
認定	—	合格	他大学において単位を修得した科目等の単位を認定する場合。	対象外
不認	—	不合格	不認定。 履修科目登録単位上限に含まれる科目を、単位互換制度において履修し評価が不合格だった場合。	対象
<p>【GPAの算出方法】</p> <p>通算 GPA = $\frac{\text{全期間の履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{全期間の履修科目単位数の総和}}$</p> <p>年度 GPA = $\frac{\text{当該年度に成績評価が行われた履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該年度に成績評価が行われた履修科目単位数の総和}}$</p> <p>学期 GPA = $\frac{\text{当該学期に成績評価が行われた履修科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該学期に成績評価が行われた履修科目単位数の総和}}$ <small>※小数点以下2位未満の端数があるときは、小数点以下第3位の値を四捨五入</small></p>				
客観的な指標の算出方法の公表方法		https://www.ndsu.ac.jp/images/univ_infor/1564032454/1564032454_1.pdf		
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学では、2016年度の認証評価結果を受け、2017年度に学長諮問会のもとに、卒業の認定に関する方針を含めた3つのポリシー策定委員会を設置し、3つのポリシーの見直しを行った。卒業の認定に関する方針を含めた3つのポリシーについて、教授会等の審議を経て2018年3月に改定し、学生便覧等で学生に周知するとともに、ホームページで公表している。</p>				
卒業の認定に関する方針の公表方法		https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html		

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	学校法人ノートルダム清心学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※計算書類に掲載
収支計算書又は損益計算書	https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※計算書類に掲載
財産目録	https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※計算書類に掲載
事業報告書	https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※事業報告書に掲載
監事による監査報告(書)	https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※計算書類に掲載

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画 対象年度: 2023年度)
公表方法: https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※事業概要・財務状況に掲載
中長期計画(名称: 中期計画 対象年度: 2019年度~2024年度)
公表方法: https://seishingakuen.ndsu.ac.jp/infor/ ※ノートルダム清心学園の取り組みに掲載

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 公表方法: https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

公表方法: https://www.ndsu.ac.jp/about/result.html https://www.ndsu.ac.jp/about/pdf/result/2017accreditaion_result.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部英語英文学科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html)
(概要) 本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、英語運用能力の向上とともに、英米文学、英語学・言語学及び国際コミュニケーションまた関連分野の学問を学修・研究し、さらに一般教養も身につける。それによって、自他双方の人生を豊かにする学生個々人の全人的人格形成をはかり、それを通して国内外において社会に貢献できる有為な人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html)
(概要) 【知識・技能】 英語という言葉、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションについて客観的に理解し、英語を通じた相互理解ができる語学的な知識と聞き、話し、読み、書くという英語の運用能力を有する。 【思考力・判断力・表現力等の能力】 英米文学、英語、英語圏の文化やコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析する力や再構築するための論理的思考力、理解力を有する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、自分で考え、判断ができる能力を有する。英語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を持っている。 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、自らの意志と判断をもとに国際社会へ貢献する意欲を持っている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html)
(概要) 【知識・技能】 リベラル・アーツの精神に基づき、1・2年次は専門分野を決定する準備段階として、学科の履修科目を「基礎科目」と「専攻科目」の2つに分類し、前者によって、英語の運用能力、後者によって、英語圏の文学、文化、言語、コミュニケーションについての専門知識を修得し、これらを自ら活用する力を獲得できるようなカリキュラムを構成する。また、2年次には、「英米文学」「英語学・言語学」「国際コミュニケーション」の3つのコースの基礎となる科目群を自由に選択できるように配置する。そして3年次から専攻分野に分かれ、3つの履修コースのいずれかを専攻する学生に専門的知識をいっそう深化させることができる科目群を配置する。英語という言葉、英語圏の文学、文化及び英語によるコミュニケーションを理解し、英語による相互理解ができる運用能力をはぐくむのに十分な科目群を配置する。(基礎科目群、学科専攻科目群など) 【思考力・判断力・表現力等の能力】 英米文学、英語という言葉、英語圏のコミュニケーションの仕組みを理解し、それについての情報を分析し、再構築するための思考力を育成するために学科専攻科目を配置する。英語で書かれた文献、文学作品の多数の実例に触れ、異なる価値観を持つ異文化を理解し、自分で考える力を育成するために、講読、演習、研究などの学科専攻科目を配置する。英

語圏を中心とした異文化を理解し、文化を超えた相互理解ができるための知識と表現力を育成するため、演習・研究等の少人数の学生による発表を伴う専攻科目群を配置する。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

異なった文化、社会、価値観に関心を持ち、それについての理解・知識を社会に活用し、自らの意志と判断をもとに国際社会へ貢献する意欲をはぐくむための科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

【知識・技能】

英語を中心として、高等学校卒業相当の知識を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

広い視野に立って、物事を多面的かつ論理的に考察し、判断できる。また、自分の考えをわかりやすく表現し伝えることができる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

英語圏の文学、文化、言語に強い関心を持ち、異なった文化、社会、価値観を持つ人々と自ら進んで関わり理解しようとする態度と、国際社会に貢献する意欲を有している。

学部等名 文学部日本語日本文学科

教育研究上の目的 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

「ことば」の様々な側面を、日本語を核とする日本文化全体の視野から見つめ直すことを目標とする。具体的には、日本語・日本文学や、書道・国語教育などの言語文化の研究を行なう。それらの研究を通して、問題意識を高め、資料を用いた論理的方法によって課題探求をし、柔軟な思考力と判断力を養う。それによって、自らの内面と「ことば」を磨き、発信のできる人材の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

【知識・技能】

学科専門科目の履修を通して、日本文学、日本語学、言語文化の知識と方法を修得するとともに、全学共通科目の履修を通して、幅広い教養と世界の言語・文学・文化についての多様な視点を身につける。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する研究を通して、問題意識を高めることで問題発見力を養い、資料を用いた論理的方法と思考によって課題探求をし、柔軟な思考力と判断力を身につけている。それを通して、人間を見つめる豊かな知性と感性の涵養のもとで、自らの内面と「ことば」を磨き、リテラシーと教養を基盤とした表現力を高め、発信することができる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野を総合的に見渡すことのできる広い視野と、主体的に自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力をもって、多様な社会や他者のために貢献する意欲がある。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】 古典籍を活用し歴史的・文化的理解を深め、古典文学・近現代文学を素材として人間の思想や感情とその表現の理解を試みる（日本文学分野）。現代のコミュニケーションのあり方を探究し、日本語のしくみについて考える（日本語学分野）。言語による表現力を養うことを目指し、日本文学・日本語学の学びを応用して国語科・書道科教員としての実力を養成する（言語文化分野）。日本文学分野・日本語学分野・言語文化分野に関する基本的な知識を総合的・体系的に修得し、幅広い専門的・教養的視野に立って、日本の言語・文学・文化を把握することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】 学科科目において、専門的なテーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を行い、文学・語学の感性を磨くとともに、情報リテラシー、論理的思考力、問題発見力、問題解決力、表現力を高める。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 現代的な問題意識を持って日本の言語、文学、文化を総合的に見渡すことのできる広い視野を養う。専門テーマに関する情報収集・読解・分析・発表・討論を通して、主体的に自らあるいは他者と協働して問題を発見し解決する力を高める。</p> <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】 国語を中心として、高等学校卒業相当の知識を有している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】 読解・分析・発表・討論を行うための日本語の確実な理解・表現能力と情報や知識を総合的に捉える論理的思考力を有している。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】 多様な日本の文化や文学及び日本語に対して強い関心を持ち、その本質を深く探究しようとする意欲を持っている。主体的に自らの内面や思考力・表現力を高めることをめざし、他者と協働して多様な社会に貢献する意志を有している。</p>
<p>学部等名 文学部現代社会学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>現代社会の諸現象が生起する仕組みを分析する社会学と、人間社会がここに至った過程を研究する歴史学を方法的支柱として、多方面から社会を考察する力を養う。社会学的方法と歴史学的方法をあわせ学ぶことで人間社会の過去と現在とにわたる幅広い視野を獲得すると同時に、履修コース制によっていずれかの学問領域について深く研鑽することを求め、社会に関する広汎な学識と専門性を兼ね備えた人材の育成を目指す。</p> <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】 社会学と歴史学を中心に、関連学問領域も含め、基本的な知識を総合的・体系的に修得し、史資料・データを収集・分析する技能を獲得するとともに、さらに専門的な学修を通して、過去と現在の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野をもつことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p>

社会学と歴史学を中心とする総合的・専門的な知識・技能をもとにして、社会のさまざまな課題について、これまでの議論や知見を検討し、史資料・データの分析結果について深く、多角的に考察し、妥当性を判断した上で、その成果を、平易かつ客観的に、論理的な説得性をもって表現することができる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

過去と現在の社会の成り立ちと仕組みを見通す視野と、史資料・データの分析を通して得られる力とを基盤にして、社会の諸課題に関心をもって向き合い、多様な人々と調査や議論を通して協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけ、また生涯にわたって社会に貢献する意欲をもつことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

【知識・技能】

学科の基礎科目（現代社会学基礎／社会史基礎、基礎演習、現代社会学基礎演習／社会史基礎演習）と専攻科目（現代社会学領域と社会史領域の各科目群）の履修を通じて、現代社会学、社会史の2つの分野の研究に必要な理論と方法、史資料・データを収集・分析する技能を修得する。また全学共通科目や他学科の学科科目、キリスト教文化研究所開講科目の履修を通して、幅広い教養及び過去と現在の社会に関する多様な知識を学ぶ。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

学科の基礎科目・専攻科目に段階的に配置された演習科目（基礎演習、現代社会学基礎演習／社会史基礎演習、現代社会学演習／社会史演習、卒業論文）の履修を通じて、基本的かつ専門的テーマに関する情報収集、分析、発表、討論、レポートの作成を行い、社会についての多角的・論理的な思考力と判断力を育み、説得性のある表現力を高める。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

学科の専攻科目に配置された特講科目、演習科目、卒業論文を通じて、現在と過去の社会の諸問題に関心をもって意欲的に向き合い、多様な人々と協働しつつ主体的に学ぶ態度を身につけるとともに、社会の成り立ちと仕組みを見通す専門的視野を身につける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

(概要)

【知識・技能】

基本的な国語力や英語力、公民や地理歴史の基本的な知識をしっかり身につけている。とくに現代社会に生起しているさまざまな事象や問題、及び世界や日本の歴史について、高等学校における幅広い学習に基づいた知識と技能をもっている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

現代及び過去の社会におけるさまざまな問題や課題について、高等学校における幅広い学習に基づいた基本的な知識の上に、自分で考え判断したことを、口頭や文章で伝える表現力をもっている。読書や新聞を読む習慣を身につけ、語彙力や文章力を培っている。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

現代及び過去の社会に対する知的探究の意欲や関心を培い、また、多様な人々と協働して学ぶ態度をもっている。人間の活動全般に関心をもち、社会参加・社会貢献への意欲を有している。

学部等名 人間生活学部人間生活学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

<p>(概要)</p> <p>本学の教育理念であるキリスト教精神に基づいたリベラル・アーツ・カレッジとしての位置づけを踏まえ、「人間中心の生活学」を総合的な視点から教授研究することを学科の目的とする。人間・福祉、経営・経済、生活・環境といった広い分野の有機的連携のもとに、人間性に満ちた、幅広い教養を持ちつつ、専門性を併せ持った人材の育成を目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>人間・福祉、経営・経済、生活・環境の各分野の学びを通じ、人間性に満ちた、幅広い教養を持ちつつ、課題に対する専門的な分析を行うために必要な知識と技能を有している。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p> <p>人間の生活を多方面から学ぶことにより、多角的に物事を捉えることのできる視野の広さを備え、社会の変化に柔軟に対応できる思考力を持っている。幅広い知識と専門性を有機的に連携させ、人間生活に関わるさまざまな課題に関する情報を的確に分析・統合し、総合的に判断できる力を持っている。課題研究を通じて専門的な視点から考察し、それを口頭及び文章の形で他者に論理的に伝える力を持っている。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</p> <p>社会人としての礼節とともに、他者への共感や奉仕の精神など、キリスト教的情操を身に付けている。それを基盤に、人と人との関わり、人とモノとの関わりを学ぶことに主体的・積極的に取り組み、人間としての生き方を深く考えようという意欲を有している。知識の背後にある人間性を尊重し、他者の人格価値に共感できる感受性を身につけ、それを実践の場で活用できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>人間性に満ちた、幅広い教養と高い専門性を両立させるための知識と実践力をはぐくむため、学問の基礎を学ぶ「基礎科目」、学科の基盤となる科目及び演習・論文作成で構成する「共通科目」、専門分野を学ぶ「専攻科目」を設ける。「専攻科目」は人間関係学や福祉学など、人間に関する研究を行う「人間福祉学履修コース」と、経営学や経済学など、社会の構造に関わる研究を行う「経営経済学履修コース」、家政学、環境学など生活のあり方を研究する「生活環境学履修コース」という3つのコースにより構成する。これにより、人間生活学科が重視する「人間・福祉、経営・経済、生活・環境」分野の科目群を幅広く配置することを可能としている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p> <p>人間の生活を多方面から学ぶため、1年次の演習で論理的な思考力を培い、2年次後半からは教員が運営するいずれかのゼミに所属し課題研究・実践研究に取り組む準備を始める。これを通じて専門性を深めるとともに、幅広い知識を有機的に連携させる力を養う。3年次からは、自らが選定したテーマに関する研究指導を受ける。このように研究関心を段階的に絞っていくことが可能なようにカリキュラムを構成している。テーマ研究を通じて卒業論文の作成、審査会での報告等を行い、学生の思考力、判断力、表現力を総合的に高める。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</p> <p>人と人との関わり、人とモノとの関わりを学び、人間としての生き方を深く考える機会を十分に得られるよう、基礎・共通・専攻各科目を配置する。学んだ知識の背後にある人間性を尊重し、他者の人格価値に共感できる感受性を身につけるため、人と暮らしを見つめ</p>

るという基本方針のもとで構成されたカリキュラムを設ける。その上で福祉団体での実習、教育実習、地域連携・共同研究活動など、様々な人々との協働の機会を提供する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

（概要）

【知識・技能】

国語、外国語その他高等学校で学ぶ教科について、高等学校卒業相当の知識・技能を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

人間生活の事象に潜む様々な問題や課題について、高等学校における幅広い学習に基づいた基本的な知識の上に、自分で考え判断したことを、口頭や文章で伝える表現力をもっている。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

生活を取り巻く多様なモノとの関わりから、人間としての生き方を考えることに強い関心を持ち、主体的に考え、学ぶ意欲を持つとともに、他者の意見や価値観を尊重し、相互理解に努める態度を有している。

学部等名 人間生活学部児童学科

教育研究上の目的（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

（概要）

学科の英文名称、Department of Child Welfare の示すように、子どもたちの幸福(welfare)に資するよう、心理、医学、福祉、教育、文化、芸術等の領域から多角的な視野で子どもを理解し、子どもの成長・発達を援助できる人材の育成を目的とする。併せて、自ら考え、主体的・自発的に行動し、高いコミュニケーション能力を備えた人材の養成も目的である。このような専門性と豊かな人間性を備えたうえで、幼稚園、小学校、特別支援学校の教員免許及び保育士資格等の取得を通して、社会の要請に応え、地域に貢献する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

（概要）

【知識・技能】

児童学の6つの領域（心理学、特別支援教育・児童福祉学、文化学、教育学、音楽、美術）の基礎的知識を習得し、そのうえで自ら選択した領域についての専門的探求を深めている。また、こうした理論的・実践的理解に基づき、人生の出発点にある子どもを教え育む者にふさわしい知識と技能を身につけている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

資料や情報を収集し、批判的に読み解くことによって、また子どもと関わる実践において状況を多面的に理解することによって、新たな理解を生み出す思考力をもっている。こうした探求を遂行するための論理的思考力、実践的判断力と、その成果を他者に伝えていく表現力を身につけている。また、自らの理解や実践を振り返り、現実を改善していこうとする省察的な思考力を身につけている。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

児童学において自らのテーマを探求することを通して、生涯にわたる知的・実践的探求を進めていくための基本的な学ぶ姿勢を育んでいる。児童学の学びや子どもと出会う体験を通して、現代の教育現場における様々な課題を理解し探求していこうすることができる。また、ディスカッションを通して、主体的に学び、他者との対話の中で理解を深めていくことができる。子どもに対して共感と敬意をもち、人間の多様なあり方を尊重しながら、自ら学びを深めたり、共に学び育ち合ったりすることのできる態度をもっている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
(公表方法 : <https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>)

(概要)

【知識・技能】

1年次必修の「基礎科目」においては、児童学の6つの領域（心理学、特別支援教育・児童福祉学、文化学、教育学、音楽、美術）について学ぶ。また、「総合演習」の少人数グループにおいて、研究・調査方法の基礎を学び、プレゼンテーションやディスカッションに主体的に取り組む中で学び方を修得する。1.2年次では、学生自身の関心に基づいて自らの研究テーマを見出せるよう、6つの領域の講義を幅広く学ぶことで、それらの基礎的な知識を身につける。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

3年次以降は、「児童学演習」を中心に様々な科目を通して、自ら主体的に資料や情報を収集し、少人数でのディスカッションを通してテーマを探求する。また、6つの領域から1つを選択し、各研究室のゼミに所属する。「児童学演習」及び「卒業論文（卒業研究）」を通して、当該領域における専門的な研究方法と実践方法を修得する。4年次の終わりには卒業論文（または制作、演奏）を完成させ、発表する。これらの探求を通して、思考力・判断力・表現力等の能力を身につける。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

上記のような講義や演習、少人数でのディスカッション等に加えて、本学科では1年次より、附属小学校・幼稚園でのボランティア実習をはじめ、通常の講義の枠組みを超えた体験の機会を用意している。2年次以降には、教職・保育職にかかわる実習（「初等教育実習」「特別支援教育実習」「保育実習」等）により、教員・保育士に求められる実践知を修得する。実習を通して子どもの実際の姿に触れて学ぶことは、児童学に関する他の科目を学ぶうえでも有機的に生かされる。これらを通して体験的な学びを支援することで、子どもへの理論的・実践的な理解を図り、より深く学ぶ姿勢を育む。他者とかかわり、協働しながら探求を深める体験を重ねることで、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を修得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法 : <https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

(概要)

【知識・技能】

子どもという存在を理解し、また、子どもの成長に貢献できるようにするためには、幅広い知識と教養が必要である。高等学校等での学習に幅広く関心をもって取り組んでいること。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

子どもと子どもを取り巻く様々な社会現象に興味をもち、多面的な視点から深め、自分の考えを分かりやすく伝える表現力をもっていること。また、高等学校等での学習を通して、問題を解決するための思考力や判断力をもっていること。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

自ら主体的に考え、学ぶ意欲をもつとともに、他者の意見や価値観を尊重し、相互理解に努める態度をもっていること。

学部等名 人間生活学部食品栄養学科

教育研究上の目的（公表方法 : <https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html>）

<p>(概要)</p> <p>生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療、あるいは児童・生徒の栄養管理や栄養教育の推進に資する管理栄養士及び栄養教諭の養成を教育上の目的とする。食に関する高度な専門知識や技術はもとより、自らの専門分野をさまざまな角度から見つめ、「人間の栄養学」を真に理解することのできる高い知性と教養を培う。キリスト教的価値観と全人的人間形成を基盤に、人間性を備えた総合力のある管理栄養士や栄養教諭の育成を目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>生活習慣病をはじめとする疾病の予防や治療、あるいは児童・生徒の栄養管理や栄養教育の推進に資することのできる管理栄養士及び栄養教諭としての知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p> <p>自らの考え方に基づき、蓄えた知識や技能を、医療や教育の現場において適切に発揮するための、思考力・判断力・表現力等の能力を有している。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</p> <p>栄養の専門家として、高い倫理観をもち、人々の健康の保持増進に貢献する関心・意欲を有している。そのために、日進月歩である栄養学・医学の分野において、主体性を持って多様な人々と協働して学び、常に自己研鑽を継続する態度を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>【知識・技能】</p> <p>はじめに、学科科目を理解するための基礎知識の修得を図る。その後、管理栄養士として必須である、食品と調理、社会・環境と健康、人体と疾病、栄養などに関する専門知識・技能を修得する。さらに、保健・医療・福祉の現場で使える実践力・応用力を身につける。また、児童・生徒の食生活と健康を守るために必要な栄養教諭としての知識と技能を修得する。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等の能力】</p> <p>栄養のスペシャリストとして保健・医療・福祉や学校現場で活躍するためには、現場のニーズを読み取る深い思考力、幅広い知識を背景とした的確な判断力、そして、判断したことを実行するための力強い表現力等の能力が必要である。そのために、実験や実習を少人数のグループで実施し、思考力・判断力を高めるとともに、双方向性の授業形態により、学生の表現力を身につけるためのカリキュラムを組んでいる。</p> <p>【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】</p> <p>さまざまな方面で管理栄養士として活躍するためには、将来の方向性を定め、自らの社会的役割を理解する必要がある。本学科では、入学直後に専攻科目として管理栄養士論を設け、「管理栄養士とは何か、どうあるべきか」について学生一人ひとりに問いかけている。このプロセスを経て、自ら関心を持った事柄に対して、主体性・多様性・協働性を持って意欲的かつ積極的な態度で、勉学に励むことができる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/policy.html）</p>

(概要)

【知識・技能】

栄養学の基礎となる化学や生物学などの基礎学力とともに、情報収集やコミュニケーションのために必要な高等学校卒業相当の国語力および英語力を身につけている。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

栄養学は、人々の健康と食を結ぶ自然科学であり、人文科学である。食に関する膨大な情報の中から必要とされる要素を抽出し、体系化できる思考力・判断力、さらにそれを人々に伝えるための表現力が必要である。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

食を通して人々の健康に奉仕し、疾病の予防と回復を促すのが管理栄養士の職務である。本学科では、人間や栄養に関する生命科学に興味を持ち、多様な人々と協働しながら、人間と関わり、人間を理解しようとする主体的な気持ちを持った学生の入学を期待している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
文学部	—	24人	14人	4人	0人	0人	42人
人間生活学部	—	18人	21人	5人	1人	4人	49人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		164人					165人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 教員業績等 文学部 英語英文学科： https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42110 日本語日文学科 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42220 現代社会学科 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=42300 人間生活学部 人間生活学科 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44100 児童学科 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44200 食品栄養学科 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=44300 キリスト教文化研究所 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=61000 英語教育センター https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=62100 国際交流センター https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=62500 新学部新学科開設室 https://www.acoffice.jp/ndsuhp/KgApp?courc=810000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
・学生による授業評価アンケートを年2回、実施。2022年度第2期から、アンケート実施後教員アンケートを付すように変更し、これを学生にフィードバックするようにした。また、FD委員会においても授業評価アンケートの結果をもとに、授業改善につながるよう検討を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	230人	162人	70.4%	890人	666人	74.8%	若干名	0人
人間生活学部	290人	289人	99.7%	1,140人	1,097人	96.2%	若干名	1人
合計	520人	451人	86.7%	2,030人	1,763人	86.8%	若干名	1人

(備考)

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	218人 (100%)	5人 (2.3%)	203人 (93.1%)	10人 (4.6%)
人間生活学部	291人 (100%)	9人 (3.1%)	270人 (92.8%)	8人 (4.1%)
合計	509人 (100%)	14人 (2.8%)	473人 (92.9%)	22人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 住友林業(株)、大和ハウス工業(株)、(株)中電工、(株)林原、(株)クラレ、(株)TAKISAWA、(株)岡山村田製作所(株)、内山工業(株)、(株)山陽新聞社、(株)システムズナカシマ、(株)両備システムズ、(株)天満屋、(株)中国銀行、三井住友信託銀行(株)、農林中央金庫、日本生命保険(相)、住友不動産販売(株)、三井不動産リアルティ中国(株)、(株)ホテルグランヴィア岡山、岡山大学病院、日本赤十字社、住友三井オートサービス(株)、四電ビジネス(株)、地方公務員、公立学校教員、保育士				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	232人 (100%)	214人 (92.2%)	11人 (4.7%)	7人 (3.0%)	0人 (0.0%)
人間生活学部	294人 (100%)	283人 (96.3%)	4人 (1.4%)	7人 (2.4%)	0人 (0.0%)
合計	509人 (100%)	497人 (94.5%)	15人 (2.9%)	14人 (2.7%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
シラバス作成にあたっては、毎年、シラバス記入要項に基づき説明会を複数回開催している。また、シラバスの点検は本学独自のシラバス作成セルフチェックリストを作成し、作成者自身が確認を行うとともに、各学科の教務担当教員を中心に第三者による確認を行い、適宜修正している。これらの取り組みにより、全学的に統一された様式で、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、毎年3月に公表している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各授業科目の到達目標、成績評価の方法・基準等は、シラバスに明記し、学生からの質問や疑問には各担当教員が対応している。				
成績評価は、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）に対応し、報告・発表、レポート、テスト等の多様な要素を組み合わせ、多面的な方法によって行っている。				
さらに、本学では、全学生に卒業論文を必修としている。卒業論文は4年間の学びの集大成として位置づけられ、その作成にあたっては、少数ゼミ方式で実施し、口頭試問など、きめ細やかな指導を行い、生涯にわたって知的・実践的探求を進めていくための基本的能力を涵養しており、その単位認定にあたっては、公開による論文発表会を開催し、厳格に審査している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	英語英文学科	124 単位	有	49 単位
	日本語日本文学科	124 単位	有	49 単位
	現代社会学科	124 単位	有	49 単位
人間生活学部	人間生活学科	124 単位	有	49 単位
	児童学科	124 単位	有	49 単位
	食品栄養学科	139 単位	有	49 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： 成績等の評価とGPA制度について https://www.ndsu.ac.jp/about/liberalarts.html		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.ndsu.ac.jp/life/campus_map.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	英語英文学科	710,000 円	200,000 円	315,000 円	
	日本語日本文学科	710,000 円	200,000 円	315,000 円	
	現代社会学科	710,000 円	200,000 円	315,000 円	
人間生活学部	人間生活学科	710,000 円	200,000 円	318,000 円	
	児童学科	710,000 円	200,000 円	318,000 円	
	食品栄養学科	710,000 円	200,000 円	318,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・所属学科の専任教員が「アドバイザー」として配置され、学生一人ひとりの修学、進路等の諸問題に対応できる体制を整備している。 ・保護者への成績通知を年2回行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ・民間企業や公務員等への就職を目指す学生を支援するために設置された「キャリアサポートセンター」の取組 1) 3人の専任職員と3人の専門キャリアカウンセラーによる手厚い進路相談体制を整備しており、対面とオンラインの併用により、年間相談実績は約4,400件 2) 学内で開催するガイダンス・セミナー等に関しては、対面方式での実施を中心に、ハイブリット方式を併用することで、年間約80回開催 3) 学生一人ひとりの面接等での実践力とオンラインでの対応力向上のため、少人数で行うワーク形式のミニセミナーを年間約110回開催 4) インクルーシブ教育研究センターと連携し、障害学生の就労に関するサポート（面談、企業研究、障害者雇用についての情報交換等）
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ・学務部保健センターに、センター長（医師）ならびに職員（養護教諭）2名を配置し、健康面でのサポート体制を整えている。 ・インクルーシブ教育研究センター「学生支援・相談部門」は、学生相談室を週5日開設し、心身の健康や学業、進路、性格、友人関係など大学生活上のいろいろな問題について公認心理師・臨床心理士が相談に応じている。 ・既往歴のある学生や疾患・障害が考えられる場合等では、インクルーシブ教育研究センター「学生支援・相談部門」、学生相談室、学務部保健センター、医療機関等で必要に応じて連携をとり、支援の充実を図っている。 ・心身の健康上の理由により、授業等に特別な配慮を必要とする場合、アドバイザー等と相談のうえ要特別配慮学生申請することにより、特別な支援を受けることが可能となっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： 1 ノートルダム清心女子大学に関する基本情報をホームページ上で公開 https://www.ndsu.ac.jp/about/univ_infor.php 2 学術機関リポジトリ https://ndsu.repo.nii.ac.jp/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F133310109572
学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	ノートルダム清心学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		148人	144人	160人
内 訳	第Ⅰ区分	88人	84人	
	第Ⅱ区分	39人	49人	
	第Ⅲ区分	21人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				160人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	7人	0人	0人
計	7人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	20人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F133310109572
学校名	ノートルダム清心女子大学
設置者名	ノートルダム清心学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		148人	144人	160人
内 訳	第Ⅰ区分	88人	84人	
	第Ⅱ区分	39人	49人	
	第Ⅲ区分	21人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				160人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	7人	0人	0人
計	7人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	20人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。